



「伝承芸能で まちづくり」を

今年の「皿山まつり」も、当番町2区(区長・中島忠)の皆さんの団結と素晴らしい演技で盛り上がりました。本当にご苦労さまでした。11月23日に3区(区長・岸川貞光、注連元・蒲地豊)に注連渡しが行われました。

有田町歴史民俗資料館には「陶山神社祭礼の絵巻」を展示しています。これは明治18年(1885)本幸平が「おくんち」の神事町のときに、注連元の田代呈一さんが記念に作ったもので、祭礼の道具を運ぶ人、御輿を担ぐ人、山車を引く人などが行列して陶山神社へ向かっていく様子が描かれています。

皆さんもご存じのように「祭り」は神霊に奉仕する神事(かみごと)が主体で、神主が天変地変の災害、病魔の回避祈祷と共に、五穀成就、村の安全を祈願するもので、霊威の加護によって平和と幸福な将来を期するものです。

秋になりますと、神への感謝と共に、その喜びを表す為に御輿をかつぎ、山車を引き余興に獅子舞などをします。即ち「祭り」は地域に住む人々の団結を助成するものです。

有田町では、特定非営利活動法人「有田町どっこむ」(代表深川祐次・有田町岩谷川内1-3-14)が音頭をとり、今年に入り「有田伝統芸能保存協議会」(代表・松尾日出男)で、町内諸団体の横のつながりを深めるための協議が行われていました。具体的には――

◎大野太鼓保存会(代表・田代正昭)

毎年、除夜の鐘のあと、新年を祝い安心・平和・幸福を願い、大人15人、子供15人ほどが集まり力強く太鼓が打ち鳴らされます。この保存会では元旦早朝の演技のほか8月26日の夏祭り、10月の有田皿山まつり、全日本ならびに佐賀県太鼓連盟の大会への参加や各種イベントなどへの出演があります。

◎有田磁器太鼓(代表・筒井孝司)

まず1月4日、町主催の新年名刺交換会で、新しい年の初めに当たり、有田町の益々の発展と隆盛を願い、力強く会場で演奏すると共に、夏祭り、有田皿山

まつり、それに公共的なイベントに参加しております。人員は、おおよそ12名で毎週木曜19時より焔博記念堂で稽古が行われます。このグループにALTも参加しています。

◎有田蛇踊り保存会(代表・多久島勝二・松尾日出男)

この保存会は1月4日にまず八阪神社、猿川神社で奉納をして有田町五区内の全世帯を回り、家内安全、繁昌を祈願します。メンバーは子供50人、大人30人です。新年奉納のほか有田皿山祭り、県伝承芸能祭に参加しています。

このほか下南山に「子供七福神」があります。1月6日に長老(これまで館林貞夫さんでした)が7人の子供の顔に墨を塗り、神様となります。この日の夕方から夜半にかけ各家庭を回り「福は内」「大黒天の金銀をどてんどっさり打つ奉る」「金の釣竿五色の糸で大きな鯛を釣り込んだ」「毘沙門天の隅から隅まで悪魔を払う」「君のめぐみぞありがたき」と唱えて回ります。

また「戸杓浮立保存会」があります。春、秋の彼岸の頃になりますと戸杓天満宮に道造りをします。「道造り」とは神様がこの場所に降りてくるように草払いをするのです。

このほか戸矢、古木場、桑古場に「カンマチ相撲」があり、中の原には夏祭りに「川飾り」があります。

しかしながら、それぞれの団体にいろいろの悩みがあります。演奏会場へ移動するときの道具類の輸送問題、練習しているとき近所への騒音の気兼ね、ウィークデイは勤めの都合で稽古が無理、そして少子高齢化等です。

明年3月1日に西有田町と合併し新しい「有田町」が発足します。西有田にも曲川浮立、山谷浮立、大木浮立のそれぞれの保存会があつて活動しています。

これらの団体が「有田伝統芸能保存協議会」のもとで緊密に連絡をとり、町民の融和と町づくりに結束をはかることを願わずにはられません。

(久富 桃太郎)

季刊

皿

山

2005

冬

No.68

有田町歴史民俗資料館・館報



平成17年度企画展

ある窯焼きさんの くらし

入館
無料

平成16年9月、白川にある刑部家(旧久保家)が老朽化したので解体するが、たくさんの資料が残っているので寄贈したいという所有者の意向を受け、業者の方が来館されました。

最初に搬入された資料は窯焼きだったころの古文書や帳簿類、久保家で使用した大量の漆器類などでした。その後、いよいよ家屋が取り壊されることになって襖や折敷類なども寄贈され、また、東京在住の子孫・刑部久子さんからは屏風、肖像画などと共に、315点もの爪楊枝入のコレクションも相次いで寄贈していただきました。

今年度の企画展は12月18日(日)まで、これらの資料をもとに幕末から明治にかけて活躍した窯焼きのくらしを紹介しています。ぜひご覧ください。

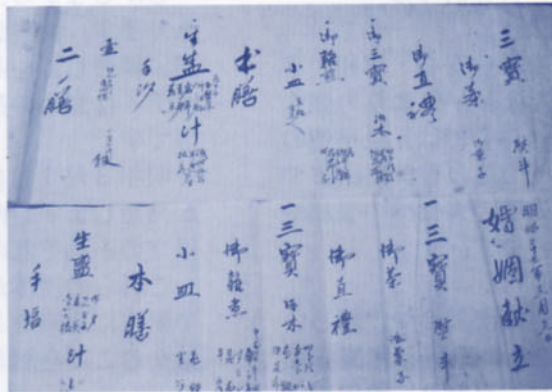
会期/平成17年
11月19日(土)
～12月18日(日)

時間/午前9時
～午後4時30分

ところ/有田町歴史民俗
資料館
(有田焼参考館にて)



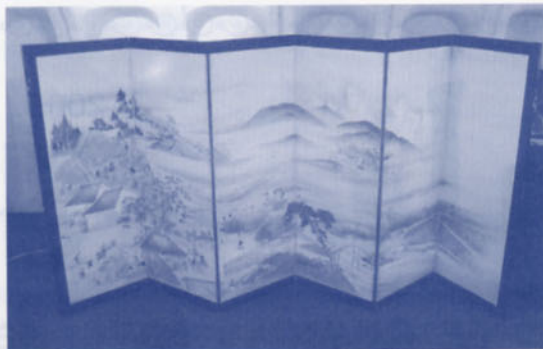
久保時太郎肖像画



明治時代の婚姻献立表



「松浦郡有田血山大樽山麓人別改帳」安政6年



斎藤秋園「四季耕作図」屏風



刑部コレクション(爪楊枝入)

江副廉蔵さんの子孫、有田町へ

前号で明治初期に長崎で撮影されたフルベッキとその教え子たちの写真を紹介しました。その中に撮影されていた佐賀藩士・江副廉蔵さんについての続報です。

彼は明治9年のアメリカ・フィラデルフィア万国博覧会に有田から参加した香蘭社社員・手塚亀之助さん、深海墨之助さんらの通弁（通訳）として同行しました。

その後、最初にこの情報を寄せていただいた末岡暁美さんを通して、江副家のその後を教えていただいているうちに、孫にあたる大口さん姉妹が有田を訪ねたいと希望されていると連絡がありました。

11月8日(火)午後、末岡さんの案内で鹿島の江副家の墓地を参詣後に有田を訪れたのは、横浜在住の大口博子さん、佐藤貴子さん、西原道子さんと富美子さん親子の4人の方々でした。共に初めて訪れる先祖ゆかりの有田でした。当館では八代深川栄左衛門さんがアメリカ滞在中の深海墨之助さんらに宛てた手紙の中に、「江副君には大変なご苦労をかけている」と書いたねぎらいの手紙を手にとり、改めて先祖の足跡に思いを馳せていらっしゃいました。



江副廉蔵さん孫・曾孫の大口さん姉妹の皆さん

この折に伺った話では、江副家は東京・虎の門(現在ホテルオークラ新館の場所)にあったこと、五男三女をもうけたこと(大口さん姉妹はその長女米鶴さんの子供にあたります)、また、五男・養蔵さんには日本を代表する作家・夏目漱石の次女恒子さんが嫁いでいること、大口さん姉妹とは従姉妹になるその子供の暁子さん・孝子さん姉妹が健在であることや、明治期の軍人であり、後に第4次伊藤内閣の陸軍大臣や第1次桂内閣の内務大臣を務めた児玉源太郎の次男に、廉蔵さんの次女シズ子さんが嫁いだことなども話題にのぼりました。

米鶴さんの名前の由来は、廉蔵さんがアメリカに滞在したのち、長崎(別名鶴の港といい、その姿が羽を広げた鶴に似ていることにちなんだもの)に帰国したことによるそうです。後にフランス総領事などを歴任した日下部三九郎さんと結婚し、十人の子供に恵まれました。

今年は日露戦争終結100周年にあたりますが、「100年前の明治38年、ロシア駐在の外交官だった父は、ポーツマス条約の締結に赴いた小村寿太郎外務大臣に随行したと聞いている」と大口さんは話されました。

佐賀や有田ではあまり知られていない江副廉蔵さんですが、明治期における経済人としての活躍の舞台は焼き物のみならず、日本美術、煙草など多岐にわたっています。また、幅広い人脈の上に築きあげた血脈は、現在も確実に受け継がれています。

廉蔵さんは大正9年3月18日に病没。享年72でした。その墓碑は東京・青山霊園にあり、同じ霊園内には恩師フルベッキも眠っています。

お知らせ

来る平成18年1月4日から31日まで、町政50周年記念の写真展を開催します。これは昭和29年に東有田町と、翌30年に曲川村の一部であった南川原地区などが分村合併して50年になることを記念し、この間の歩みを写真で振り返るものです。

主な写真は有田町出身の故原榮三郎さんが撮影した昭和30年代の有田の工場、風景などが中心ですが、そのほかに、40年代に撮影された故一ノ瀬泰造さん撮影のもの、また、町内の方々から提供された写真なども加えた約120点を展示します。

皆さまのご来館をお待ちしています。

町制50周年記念

「事業カメラが遺したふるさとの記録」

- ・期 間 平成18年1月4日(水)～
1月31日(火)
- ・開館時間 午前9時～午後4時30分
- ・場 所 泉山 有田町歴史民俗資料館
- ・入館料 無料

古を訪ねて

皿山ウォーキング パート8 開催

8回目となった恒例の皿山ウォーキング(教育委員会生涯学習課との共催)を11月22日(火)に開催しました。当初、17日に開催する予定でしたが、この企画を始めてから初の雨天順延となりました。今回は秋の紅葉も楽しみながら、体力増進と共に有田の歴史に触れていただきたいと紅葉の色づきを見ながら計画を立てましたので、この日程のズレで一番の見ごろを逃してしまうのではと案じられました。しかし、参加者には「時まさに秋」をじっくり堪能してもらうことができました。

今回の参加者は20名。まずは昭和32年、荒廃した国土に緑を取り戻そうと植樹された当館周辺の紅葉を見学。途中の石場神社参道も紅葉が見事でした。その後、昭和初期に有田町長を務めた青木幸平さんが作り上げた庭園の其泉荘【現在賞美堂(蒲地桃子社長)私有地】を今回は特別に開放していただき、庭園内を散策しました。初めて中に入るといふ人もいて、隠れた有田の名所の紅葉に驚かれていました。



其泉荘の中を散策する参加者の皆さん

その後、山小屋・中樽窯跡などを通り、明治17年2月に佐賀県内8番目の開校となりながら、同年7月には廃校された有田中学校跡地、西登、東登、大樽登などの窯跡を眺めながら陶山神社へ。ここでも社務所裏手の紅葉を楽しみながら、江戸時代の名代官として

人々に慕われた成松信久(万兵衛)碑を見学し、資料館へ戻りました。

この皿山ウォーキングも回を重ねることに参加者も増え、年2回の開催を楽しみにされている方も多くなりました。来年の西有田町との合併後も開催する予定ですので、今回残念ながら参加できなかったという方は是非ご参加ください。



快適な環境の 街づくり

こんなことを書いたら、今さら何を言っているのだと怒られそうですが、小学生の頃を思い出しながら、いま必要なのは「教育勅語」ではないかと思っています。

教育勅語の柱となっているのは「①父母を敬い、②兄弟姉妹仲良く ③夫婦相和し ④友を信じ ⑤自らが国を守る気持ちを忘れない」です。シルバー層の皆さんは太平洋戦争そして日中戦争など命がけの時代でした。そして戦後の食糧難をはじめ苦難の時代を経て今日に至りました。今の世の中は不安定で物を大切にせずせたくで、物余りの時代に見えます。教育勅語の精神を復活することによりコミュニケーション、そして思いやりの心も育つのではないのでしょうか。

有田の街は四季おりおり美しく、先人の築いた努力が活きているまちです。いよいよ西有田町との合併も目前に迫りました。教育勅語をベースにしてコミュニケーションを再構築することにより、新しい有田町は輝きを増すものと思います。

有田の街をアメニティタウン(快適な環境の町)に、そしてプライド・オブ・プレイス(ふるさとに誇りをもつ)町に、やきもの、農産物、畜産物と美しい景観を資源に新しい有田の町を求めてゆきたいものです。

(久富桃太郎)

季刊『皿山』

通巻68号 (平成17年12月1日)
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山1丁目4-1
☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185